4月19日は 新潟市 花育の日

初めての新潟市「花育の日」を記念して
さまざまな花育イベントを行いました。

共催　新潟市、新潟オランダ協会
にいがた花絵プロジェクト

チューリップ鑑賞会

ちゅーりっぷール

おし花で
コースター作り

キラキラガーデン散策

いけばなを体験した
オランダ公使ご夫妻

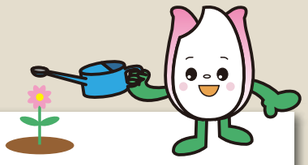
花育の日を
スタッフとして盛り上げて
くれた新潟農業・バイオ
専門学校のみなさん

“和” の花育 小原流いけばな体験

チューリップの花絵づくり

花育リポート

食育･花育センターでの花育活動をご紹介します。



花の就業体験

新潟大学農学部の学生による成果発表
進化するインターンシップ

2015年3月4日
新潟日報メディアシップ

食育･花育センターには、就業体験として、中学生から大学生までの多くの学生がインターンシップに訪れます。季節や学生の年齢等によって体験内容は異なりますが、その一部をご紹介します。

昨年夏、新潟大学農学部の 4 名が約 10 日間の就業体験をし、様々な業務を担当しました。そのうち、子どもたち向けの団体体験プログラムの企画運営をお願いしたところ、短期間でありながら、素晴らしいアイデアで実行し、職員も大いに刺激を受けました。「おし絵をつくろう !」については、その後、食育･花育センターの団体体験プログラムのレギュラーメニューとして採用し、現在も人気のプログラムとなっています。

また、3 月 4 日には新潟日報メディアシップにて、県内大学生のインターンシップ体験を発表する「進化するインターンシップ新潟フォーラム」が開催され、学生自らが、取り組んだ課題や内容、そこで得たものなどをプレゼンテーション形式で発表し、あらためてインターンシップ制度の重要性と、学生たちの純粋な大きな力を感じさせる場となっていました。

従来のインターンシップは、企業から用意された作業を行う「体験型」が主でしたが、現在は課題に取り組む「問題解決型」に移行しているため、学生にとっては、より高いコミュニケーション能力が必要となり、時にはリーダーシップも求められます。しかし、問題解決型だからこそ、より高い就業能力を持った人材育成に貢献できるものになりつつあります。さらに、こういった発表の場があることにより、担当した企業や施設について深く調べ、目的や主旨の造詣が深まる効果もありました。

今回の学生 4 名は、食育･花育センターでの団体体験プログラムの企画で成功したにも関わらず、さらに改善点や問題点も発見していました。

- 「どうしたら子どもたちが植物に興味を持つか」を考えるために、植物をよく観察し、分析する。
- 「どうしたら楽しく学んでもらえるか」を考えつつ、絵を加えた資料を作成したり、クイズの解答時の対応を工夫する。
- 終わったのち、どんな課題が発生したかを話し合い、すぐに次の機会へ活かす。

現実の問題として、インターンシップ制度は、受け入れる企業側の負担も大きいということから、なかなか受け入れ企業がみつからないという側面もあります。しかし、このような発表の場を通じて、あらためて受け入れ側が「社会貢献」という認識を深め、学生たちの潜在能力を発見できれば、インターンシップ制度は大きく広がり、更に進化していくものと思われます。

「さわって！かいで！はっぱクイズ !」

「おし絵をつくろう !」

花育流「ありがとう」

花育体験 in ゴールデンウィークスペシャル
母の日にぴったり！愛のフラワーメッセージ

2015年5月5日
講師：伊藤歌夜子 &
こんだいらあやこ & しばいひろこ

ゴールデンウィークのイベントのひとつとして、5月2日から6日までの 5 日間、花育体験を行いました。人気のアロマテラピーや寄せ植え、フラワーアレンジメントやチューリップの花びら染めなど盛りだくさん！特に 5 日は多肉植物のイニシャルプランツ & ハーブリース & ワイヤーアートで素敵な母の日のプレゼントになる花育体験を行いました。

最後に、葉っぱに感謝の気持ちを
書きこんで…

その場でお母さんにプレゼント。
ふたりとも、とってもいい笑顔。

香りのよいリースを頭にのせて、
ハーブの冠にしていた子も。